

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：衛生費 項：公衆衛生費 目：生活衛生指導費

事業名 公衆浴場対策費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 生活衛生課 衛生指導係 電話番号：058-272-1111 (内3415)

E-mail : c11222@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 2,563千円 (現計予算額： 5,196千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	5,196	0	0	0	0	0	0	0	5,196
補 正 要求額	2,563	0	0	0	0	0	0	0	2,563
決定額	2,563	0	0	0	0	0	0	0	2,563

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県民の健康の増進等に関し重要な役割を担う一般公衆浴場へ支援することにより、公衆衛生の向上及び県民の健康増進の向上に寄与する。

募集の結果、補助申請額が当初予算額を上回ったことから増額補正する。

(2) 事業内容

ア 設備改善対策事業費補助金 (7,668千円)

対 象：市町村

内 容：市町村が行う一般公衆浴場営業者の設備改善事業補助
に対する補助

イ 入浴料金審議会 (112千円)

内 容：一般公衆浴場の入浴料金の統制額に関する調査審議。

(3) 県負担・補助率の考え方

ア 設備改善対策事業費補助金

県：1/3、市町村：1/6、事業主体：1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	△ 21	審議会委員報酬
補助金	2,584	市町村に対する助成
合計	2,563	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

①施設・整備費補助金、②経営安定化、③活性化（組合補助） ※R5当初予算要求

富山県：①16,450千円

石川県：① 6,000千円、③2,000千円

福井県：① 3,000千円

愛知県：①13,060

三重県：補助制度なし

(2) 事業主体及びその妥当性

公衆浴場法により、国及び地方公共団体には、公衆浴場の確保のため助成その他の必要な措置を講ずるよう努力義務が課されており、県負担は妥当

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	公衆浴場設備改善対策事業費補助金
補助事業者（団体）	補助対象の公衆浴場が所在する市町 (理由) 市町が公衆衛生維持のため各公衆浴場に行う支援に対する補助のため。
補助事業の概要	(目的) 県民の衛生水準の向上 (内容) 入浴料金の統制を受けている一般公衆浴場に対する補助
補助率・補助単価等	定率（市町村補助の2/3） (理由) 社会情勢等を踏まえ検討
補助効果	公衆浴場における衛生水準の確保と経営の安定化
終期の設定	終期 令和9年度 (理由) 目標達成状況や社会情勢等を踏まえ検討

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
一般公衆浴場に対し補助金を交付している市町に対する補助を行うことにより、衛生環境の維持を図るとともに利用者である県民の利便性を維持する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
補助申請件数に対する補助決定の割合	—	100%	100%	100%	100%	100%

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度	R5年度
	5,076	5,290	4,511

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<令和4年度補助実績> ① 公衆浴場設備改善対策事業費補助金 : 6市 5,290千円 ② 公衆浴場経営安定化補助事業費補助金 : 1市1町 90千円 ③ 公衆浴場活性化対策事業費補助金 : 388千円
	指標① 目標 : 100% 実績 : 100% 達成率 : 100%
令和5年度	<令和5年度補助実績> ① 公衆浴場設備改善対策事業費補助金 : 5市 4,511千円
	指標① 目標 : 100% 実績 : 100% 達成率 : 100%
令和6年度	令和7年度当初予算にて追加
	指標① 目標 : 100% 実績 : 100% 達成率 : 100%

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない	
(評価) 2	①県民の快適な衛生環境を維持するため、必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2:期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1:期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0:ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 2	①老朽化が進む一般公衆浴場において施設整備などを実施することにより、より快適な衛生環境を県民に提供することができる。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている	
(評価) 1	①各一般公衆浴場の施設整備などが適切に図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 国の定める物価統制令により、一般公衆浴場の事業継続が非常に困難な状況にある
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ①継続すべき事業である ②取組むべき事業である
・一般公衆浴場の主な利用者は、自家風呂を持たない者をはじめ高齢者、傷病者等が多く、一般公衆浴場の廃業による影響を最も強く受けるのはこれらの社会的弱者層である。
・しかし、一般公衆浴場は物価統制令により入浴料金上限額が設定されており、大規模な改修費や機器の購入費を料金に転嫁することが困難であるため、各種の補助制度によりその安定的な経営を引き続き支援していく必要がある。